

第163回 令和8年1月27日（火）

「輪と直線について。」

西洋と東洋では考え方には根本的な違いがあります。「死生観」もその一つです。

西洋の歴史観は常に一方方向に延びていきます。過去から未来へ、変化をしながら時間が流れています。歴史は繰り返えさず、亡くなった人が生まれ変わって別の人間になることもありません。時間を直線で見ている感覚です。

一方東洋は古くから「輪廻転生」という考え方があります。死んだ魂は別の姿となってこの世に戻ります。人間であるとは限りません。その影響で東洋の歴史観は「歴史は繰り返す」という概念が強く、いつか原始に戻ることも否定しません。

どちらが良くてどちらが悪いというものではありません。私たち日本人がマナーや規律を守る国民であることはこれが起因している可能性もあります。それでも西洋が規則を守らないというわけではありませんし、一度の人生という気概をもってチャレンジスピリットが旺盛なのは良いことです。

時間の流れを「輪」のように捉える東洋人の考え方には「干支」というものがあります。12年で1周するわけですが、60年で「還暦」と言ってスタート地点に戻ることになります。

私も「ひのえうま」生まれなので還暦になりました。誕生日はまだなのですが、少し感慨深いものがあります。還暦まで大きな病気もせずに過ごせたことに感謝しなくてはいけないと思っています。

同時にいままでは本に例えると「上巻」「下巻」のどの辺りかなと思っていたが、還暦となると「あとがき」「謝辞」に入ってきたのかなと感じます。

自分のできることや自分の役割を自覚して、少しずつ「恩返し」していく時期に入ったような気がします。大きなことをしなくとも他人のために生きることの大切さを感じています。

人生100年時代と言われるようになり、年齢を重ねた人たちがスポーツジムやサプリを使ってアンチエイジングに力を注いでいます。いつまでも若く、いつまでもずっと働き、健康でありたいという願いは誰もが持っています。西洋的な直線思考なら「死ぬまで成長」というポジティブなメッセージかもしれません。

それでも人間の命には限りがあります。50にして天命を知り、60で耳順う（他人の言うことを素直に聞くことができる）と中国の故事に書かれています。人の一生も繰り返し、この時期にはこのようになるものであるというこの考え方もとても理解できます。